



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

落葉広葉樹林の資源量推定方法に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小見山, 章 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/133

は し が き

本研究では、落葉広葉樹の樹形を、長さと重さの次元で、細大もらさず測定することを試みた。これによって、落葉広葉樹林の資源量を適正に推定するための相対成長関係が得られたうえに、多種が混交する森林で、それぞれの樹種が樹形を変えて、独特の生活を行っている様子を解析することができた。

前回は岐阜県荘川村六厩にある落葉広葉樹林で、12樹種34本の樹木について今回と同様のデータをとった（平成4年度科研報告書）。今回は岐阜県萩原町にある岐阜大学農学部附属演習林で、1992年7月24日～7月30日および、1993年7月20日～7月25日の期間に、6樹種31本の落葉広葉樹の伐倒調査を行った。また、1994年5月から調査地の林分構造に関する調査を行い、10月22日に岐阜大学で研究成果の検討会を催した。

本書は、これらの調査から得られた成果の一部をとりまとめたものである。樹木の伐倒調査を行うにあたって、前回の荘川村での調査時に結成した”葉むしり同好会”の諸氏、ならびに岐阜大学農学部演習林の教職員の皆様の御協力を得た。これらの方々の御助力なしでは、この計画は実行できなかつたと思われる。ここに厚くお礼申し上げる。

平成7年2月

研究組織

研究代表者：小見山章（岐阜大学農学部助教授）

研究分担者：藤原三夫（岐阜大学農学部助教授）

肥後睦輝（岐阜大学農学部助手）

二宮生夫（愛媛大学農学部助教授）

研究経費

平成4年度 800千円 平成5年度 700千円

平成6年度 700千円 計2,200千円

研究発表

- (1)小見山章ほか，落葉広葉樹の生活史と樹冠形について，発表予定.
- (2)岩田貴裕・小見山章ほか，落葉広葉樹二次林における種ごとの樹形の違い，日本林学会中部支部大会，1993年10月3日，隅田明洋・小見山章，葉の占有空間としての樹冠（仮題），日本林学会，1995年4月発表予定.